

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家さいだいじ館（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 26日 ～ 2025年 10月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年 9月 29日 ～ 2025年 10月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内がバリアフリーになっているため、重症心身障害児や医療的ケア児の受け入れも行っている。また、様々な障害種別に対して個別支援計画に沿って関係機関と連携も取りながら支援を保育士・理学療法士・言語聴覚士・看護師が行っている。	医療的ケア児童も安心して過ごすことができるように看護師を配置し適切な処置が受けることができます。またTECCHプログラムを取り入れ、構造化された環境で支援を行っています。専門的な支援が行えるように学校やリハビリの様子の見学を行い質の高い支援ができるように努めています。	強度行動障害の研修やこども部会などに参加し、様々な研修を行うことで質の高い支援を利用児童に合わせて行っています。またST・PTが保護者のニーズに合わせて個々の療育を行うことで摂食指導や言語療育、運動療育など機能の維持や向上を目指して取り組みを行っています。
2	1階の生活介護があるため、合同で季節の行事やイベントなど行うことができ、様々な方たち（生活介護や地域の方、他事業所の方）と交流を図る機会がある。	大きなイベントだけでなく、様々な行事を通して生活介護の利用者様や職員などと関わり様々な方と関わりながら色々な経験ができるようにしています。	大きなハロウィンフェスタのようなイベント以外にも誰もが参加いただけるイベントを企画していく。
3	児童の様子を送迎時やLINEを通して情報共有し合い、成長を共に喜び、困りごとに対しては共に解決できるように共通理解を深めている。また関係機関とも情報共有をしている。	統一した支援ができるように学校や相談員、他事業所とも情報交換を行っている。また会議で出た情報や課題を職員間で共有することで、切れ目のない統一した支援ができるようにしている。	子どもの様子を情報共有できるように定期的に会議を開催することで引き続き安心して利用して頂けるようにする。また子どもを中心に巻き取り関係機関と連携して情報を交換し成長をサポートできるようにしていきます。そして保護者様とも情報交換を密にできるようにLINEやブログを通してさいだいじ館の取り組みを伝えていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催や保護者同士の交流する機会が少ない。	ハロウィンフェスタのイベント時に憩いの場を用意しており交流できる機会があったが、回数が少ないため日程の調整が難しいことやこどもがメインで交流する時間がしっかりとることができなかった。	ご家族様などが参加できるイベントを企画していく。 （例）クリスマス会、保護者会など
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと交流する機会が少ない。	地域の公園や長期休み等を利用して児童館、商業施設に外出しているが児童館の利用されている方との年齢が離れすぎていて交流が難しい。また、外出先では活動が目的となっているため、交流する機会が少ない。	児童館や地域で開催されるイベントに参加することで交流する機会を積極的に増やしていく。
3	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切についての対応について	説明の仕方が職員によって偏りがある。LINEでの連絡になると支援中であると確認が遅く対応が遅くなってしまうことがある。	周知・説明に関しては統一した説明ができるように必要なものに關しては手紙で同文章で説明を行うようにする。また緊急な相談に関しては電話で対応できるように保護者様にもお知らせしていくようにする。